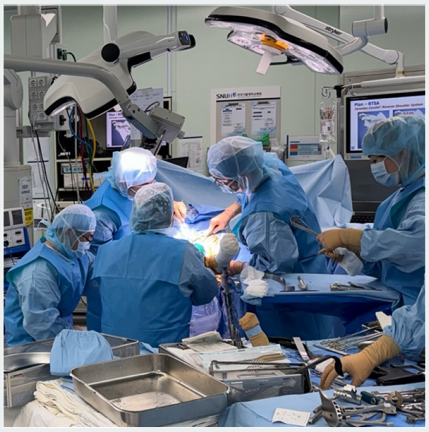
一般社団法人

日本肩関節学会

Japan Shoulder Society

Newsletter



2026.01

vol.25

INDEX

002 **理事長あいさつ**

003 **新代議員あいさつ**

007 **第52回日本肩関節学会学術集会を終えて**

010 **第53回日本肩関節学会学術集会会長あいさつ**

011 **第54回・第55回学術集会のお知らせ**

011 **トラベリングフェロー帰朝報告**

韓国トラベリングフェロー帰朝報告（吉田 勇樹）

韓国トラベリングフェロー帰朝報告（平川 義弘）

020 **各委員会報告**

雑誌「肩関節」編集委員会

国際委員会

高岸直人賞決定委員会

社会保険等委員会

教育研修委員会

学術委員会

広報委員会

財務委員会

定款等運用委員会

リバース型人工肩関節運用委員会

日本肩の運動機能研究会運営委員会

用語委員会

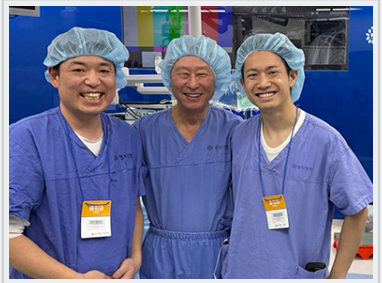
選挙管理委員会

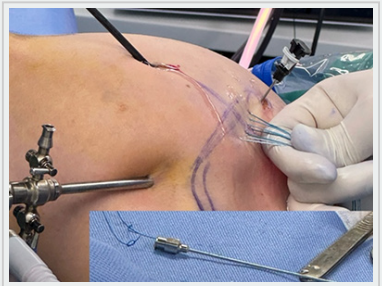
学術代議員選考委員会

028 **日本肩関節学会 委員会リスト** （2025年12月現在）

031 **事務局からのお知らせ**

031 **編集後記**





理事長あいさつ

一般社団法人 日本肩関節学会 理事長 **今井 晋二**

2025年の活動を報告させていただきます。最初に事務局移転の手続きにつきまして、経緯を報告させていただきます。2024年10月末の社員総会で理事長に就任させていただきました時点で前事務局との契約は1月末日までであることを知らされました。

11月から12月の間でコンベンション・事務局会社5社にお声かけし、3社から競争参加の返事がありました。見積もりをとり、臨時理事会を開催し、2社に絞りました。当該2社とWebでのプレゼンを行い、その内容をもとに再度理事会にて毎日学術フォーラムに決定いたしました。

今回の事務局移転で事務局の通常経費は若干の値上がりはありましたが、昨今の物価高騰の影響範囲内で収まったと考えております。今回の事務局移転では、雑誌「肩関節」の出版会社も変更となっています。毎日学術フォーラムの通常業務内に「編集・構成業務」も入っていますので、「印刷・出版」業務をアウトソーシングする費用が発生しました。

事務局移転に関する出費はある程度抑えることができましたが、肝心の会員費・賛助会員費の徴収業務に一部遅滞があり、会員収入が減少しました。現在、追加で納入依頼をかけているところです。詳細は今年度の予算で報告したところです。

2つ目は、会費増額とJSES購読料について報告させていただきます。4月にこれに関するアンケート調査を行いました。社員総会でも報告しましたが、おおむね3分の1の会員は「JSES学会一括購入は継続すべきで会費増額やむなし」、次の3分の1は、「JSES購読は受益者負担すべきで会費増額は避けたい」、最後の3分の1は「JSES購読はやめるべきで会費増額は反対」でした。

2025年10月の社員総会での議論と11月の理事会を経て、以下のように決定しました。

1. JSESの学会一括購入は継続する
2. 現在の会費15000円を18000円に増額する
3. 40歳未満の会員はジュニア正会員とし、会費負担は15000円に据え置く
4. ジュニア正会員はJSESの学会購読料を免除する(購読権を持たない)

この新しい会員制と購読料は2026年前半に開催予定の臨時社員総会(Web)で社員の皆様のご審議を仰ぐことになります。なにとぞよろしくお願いいたします。

3つ目は、伊﨑輝昌会長による第52回日本肩関節学会、三宅智会長による第22回日本肩の運動機能研究会が大変な成功裡の内に開催されたことをこれまでの繰り返しになりますが、報告いたします。福岡国際会議場で開催された本会は1700名を超える参加者が登録し、10名以上の海外招待参加者が集い、大変な盛り上がりを見せました。各セッションは「満員立ち見」の盛況で、全員懇親会も広い懇親会場でしたが皆の肩が触れあうほどの盛り上がりでした。改めて福岡大学関係者の熱意とご努力に感謝いたします。

最後に2026年も日本肩関節学会会員の皆様にとりまして実り多い1年になりますよう祈念しております。

新代議員あいさつ

代議員 泉 仁

このたび、愛媛の大前博路先生、愛知の梶田幸宏先生のご推薦を賜り、代議員にご選出いただきました、高知大学整形外科の泉仁（いずみまさし）です。2003年に山口大学を卒業後、2005年より高知大学に所属し、現在は肩・肘・スポーツ班のチーフ、ならびにリハビリテーション部長として診療に従事しております。以前より「関節痛の発生および増悪のメカニズム」に関心を持ち、過去10年間は臨床・研究の両面から「肩の痛みの病態解明とカスタムメイド治療の確立」をテーマに取り組んでまいりました。今後は、地方においても質の高い肩関節診療を提供できる体制の整備や、地域からの独自性ある研究発信に尽力し、学会の発展に微力ながら貢献できればと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

代議員 石塚 真哉

このたび、日本肩関節学会代議員に選出していただきました、名古屋大学整形外科の石塚真哉でございます。2002年卒、現在大学肩グループのチーフをしております。酒井忠博先生のご指導の元で肩関節鏡の魅力に深く惹かれ、また当時愛知医科大学に在職された岩堀裕介先生にご指導いただきながら肩に関する臨床・研究を行っておりました。

これまで日本肩関節学会の諸先輩方からは、学会や研究会を通じ大変多くのご指導を賜りまして、今日まで私を導いていただきました。今後は諸先輩方からいただきました多くの知識・経験を次世代の肩関節外科医育成と日本肩関節学会のさらなる発展に還元すべく努めたいと考えております。皆様、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、代議員選挙にあたりご推薦いただきました大阪中央病院の林田賢治先生に心より御礼申し上げます。

代議員 植木 博子

この度、日本肩関節学会代議員に選出していただきました、東京スポーツ＆整形外科クリニックの植木博子と申します。2009年に日本医科大学を卒業後、東京科学大学整形外科に入局し研鑽を積む中で肩関節外科に興味を持ち、中川照彦先生、望月智之先生、吉村英哉先生、二村昭元先生をはじめとする諸先生方よりご指導を賜りました。2019年にはリヨンでGilles Walch先生、Arnaud Godeneche先生のもと臨床留学の機会をいただき、TSA/RSAやLatarjet法など肩関節医療を学び視野を広げることができました。現在はTSOCに勤務し、菅谷啓之先生のもとで多くの症例を経験するとともに臨床研究にも力を注いでおります。代議員として学会運営の一端を担う機会を頂き、身の引き締まる思いです。より実践的かつ発展的な学会づくりに微力ながら貢献してまいります。最後に、代議員選挙に際し推薦人になっていただいた山門浩太郎先生、田崎篤先生をはじめ、ご支援いただきました先生方に厚く御礼申し上げます。

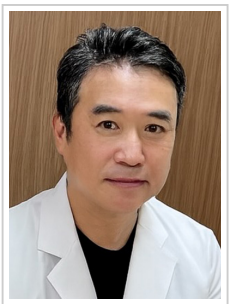
代議員 大石 隆幸

この度、日本肩関節学会の代議員に選出していただきました聖路加国際病院の大石隆幸です。私は2004年に群馬大学を卒業し、2006年より横浜市立大学整形外科に入局しました。関連病院において日常診療を行う中で肩関節鏡手術に興味を持つようになり、2010年から3年間、横浜南共済病院 山﨑哲也先生のもとで関節鏡手技やスポーツ整形外科を学ばせて頂きました。その後関連病院や大学附属病院勤務期間を経て、2021年に現在の所属である聖路加国際病院に異動し、田崎篤先生からBankart Bristow法手技を中心に学ばせて頂くとともに、協力して高いレベルでの肩関節診療を実践できるよう努めて参りました。

今後は学会のさらなる発展と次世代の人材育成に微力ながら尽力して参りたいと考えております。

最後になりますが、代議員選挙にあたり推薦人となって頂いた山﨑哲也先生、見目智紀先生を始め、ご支援賜りました先生方に厚く御礼申し上げます。

代議員 加藤 久佳



この度、日本肩関節学会の代議員に選出いただき、身に余る光栄と深く感謝申し上げます。日本鋼管福山病院の加藤久佳と申します。岡山大学大学院では西田圭一郎先生に師事し、関節リウマチの臨床および基礎研究についてご指導いただきました。鳥取市民病院にて廣岡孝彦先生から肩関節診療の基礎をご指導いただいた後、Northern General Hospitalで上肢外科を研鑽するため渡英し、David Stanley先生から多くの貴重な学びを得ました。学会入会後は名越充先生、末永直樹先生、池上博泰教授をはじめ先輩方より温かいご助言を賜りました。現在は多数の肩手術に携わるとともに、若手教育や研究会活動、院外施設への手術支援にも力を注いでおります。また臨床経験を積み重ね、診療体制の向上を図りながら地域医療の発展にも取り組んでおります。今後も研鑽を深めつつ、これまでの経験を学会へ還元し、その発展に寄与して参ります。

代議員 永田 義彦

この度、日本肩関節学会代議員に選出いただきました広島西医療センターの永田義彦と申します。私は、2000年に大阪医科大学を卒業し、同年に広島大学整形外科学教室へ入局しました。松山赤十字病院で菊川和彦先生に御指導いただき、2006年に広島大学大学院へ入学、博士課程としての基礎研究を行うと同時に肩関節診療班へ所属し、当時の望月由准教授より御指導をいただきました。その後、2010年に広島西医療センターへ赴任し、肩関節診療を開始し、臨床・研究を継続し研鑽を積んでまいりました。日本肩関節学会には2006年に入会し、本学会の先生方から多くの御指導をいただきました。今後は本学会の発展に微力ではありますが貢献できるよう努力精進いたす所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。最後に、代議員選挙へ推薦いただきましたマツダ病院の菊川和彦先生、神戸医療センターの国分毅先生をはじめ多くの先生方に心より御礼申し上げます。

代議員 中根 康博

この度、本学会の代議員に選出していただきました角谷整形外科病院の中根康博と申します。私は1996年に佐賀大学を卒業後、和歌山県立医科大学整形外科に入局しました。一般診療を行う中で、特に肩関節に魅力を感じ、1999年に本学会へ入会させて頂きました。2006～2007年には菅谷啓之先生のもとで研鑽を積む機会を頂き、その経験が私の肩関節学の礎となっています。以来、多くの諸先輩方や仲間とのご縁にも恵まれながら肩外科医として精進して参りました。

和歌山からの代議員選出は初めてとのことで、その責任の大きさを感じつつ、歴史ある本学会の更なる発展に寄与できるよう、また地域肩診療の充実、および後進の育成に微力ながら尽力する所存です。最後になりましたが、代議員に推薦下さった高橋憲正先生、田中誠人先生、加えて温かいご支援を賜りました多くの先生方に感謝申し上げます。皆さま、今後ともよろしくお願い申し上げます。

代議員 廣瀬 毅人

この度は日本肩関節学会代議員に選出いただき、誠にありがとうございます。大阪大学整形外科の廣瀬毅人と申します。まずはご信任を賜りました代議員の先生方に心より御礼申し上げます。また、ご推薦くださいました岩堀裕介先生、望月智之先生にこの場を借りて深く感謝申し上げます。これまで肩関節診療や肩不安定症を中心とした研究に携わり、学会発表・論文執筆などを通じて本学会から多くの学びを得て参りました。本学会を築いてこられた諸先輩方のご尽力に深い敬意を表し、次世代の発展に寄与できるよう引き続き研鑽を重ねる所存です。若手育成や国際的な連携にも力を注ぎ、現場と学術の橋渡し役として微力ながら貢献して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

代議員 福西 邦素

この度、日本肩関節学会の代議員に選出いただきました洛西シミズ病院の福西邦素と申します。私は1993年に大阪医科大学（現大阪医科薬科大学）の整形外科学教室に入局し、翌1994年に日本肩関節学会に入会しました。以後、大阪医科大学（現在の大阪医科薬科大学）整形外科で肩班を立ち上げられた阿部宗昭教授と土居宗算先生に師事し肩関節疾患、外傷の治療に従事してまいりました。

現在は三幡輝久先生を中心とした大阪医科薬科大学病院の肩関節班の臨床研究、野球検診、関連施設での手術のサポートなどに参加し、日々研鑽を積んでおります。今後はこれまでの経験を活かし、日本肩関節学会のさらなる発展に貢献したいと考えております。

今回の代議員選挙にあたりご推薦いただきました丸山善康先生、山本宣幸先生をはじめ、推挙いただいた多くの先生方に心より御礼申し上げます。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

代議員 四本 忠彦

この度、日本肩関節学会の代議員に選出頂きました、京都九条病院の四本忠彦と申します。私は、2000年に島根医科大学を卒業し、母校の整形外科に入局致しました。2004年に菅谷啓之先生のもとに初めて肩の勉強に行かせて頂いたのをきっかけに、肩学会の多くの先生方から教えを賜る機会を得て、現在は肩専門として地域の患者様への診療に携わることができております。現状の私があるのは、学閥や学年などの垣根を越えて教えて下さった肩学会の先生方のおかげです。これからも、自らを鍛錬し続けながら、この素晴らしい環境を後進に繋いでいけるよう努力したいと考えております。最後に、代議員選挙にあたりご推薦を賜りました、森原徹先生、木田圭重先生をはじめ、ご支援を賜りました多くの先生方に感謝申し上げますとともに、肩学会のためにお役にたてますよう、精進して参ります所存です。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

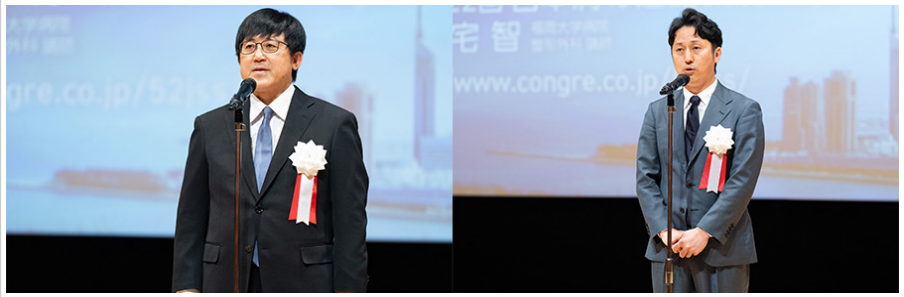
第52回日本肩関節学会学術集会を終えて

福岡大学筑紫病院 整形外科教授 **伊﨑 輝昌**

第52回日本肩関節学会学術集会を、2025年10月10日（金）・11日（土）の2日間、福岡国際会議場にて開催いたしました。開催にあたり、多大なるご支援とご協力を賜りました理事・代議員の先生方、演者、座長、参加者の皆様、ならびに関係各位に、心より御礼申し上げます。

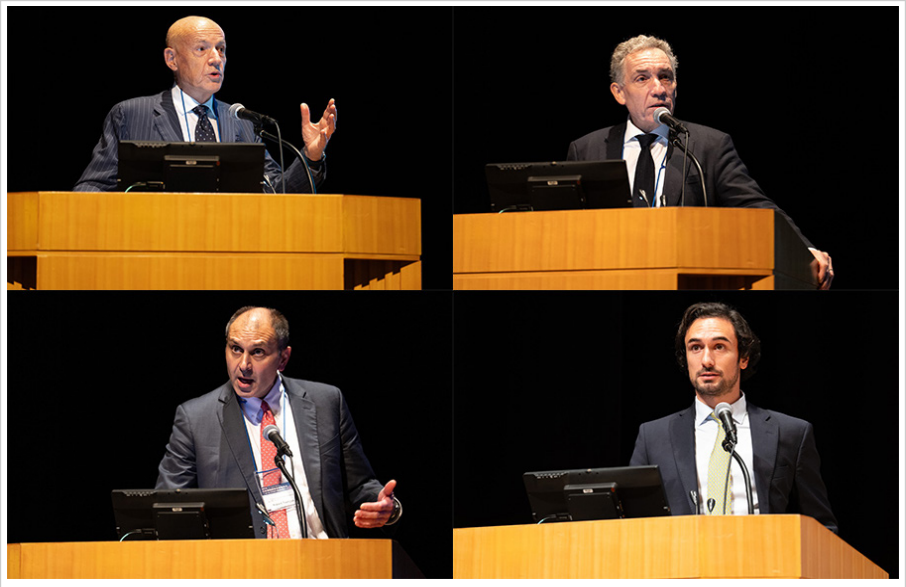
本学術集会のテーマには、「学而不厭（がくじふえん）：継続的探求と次世代への継承」を掲げました。本テーマは『論語』に由来し、学びを厭わず、生涯にわたり探求を続け、さらにその学びを後進へと伝えていく姿勢を表しています。日々の臨床や研究を通じて得られる知見を、次の世代へと確実につないでいくことこそが、肩関節外科の発展を支える基盤であるとの思いを込めました。

本学術集会には、医師および理学療法士・作業療法士、看護師などの関連職種を含め、登録参加者数は、総勢1,674名にのぼりました。一般演題は、日本肩関節学会493題、日本肩の運動機能研究会243題、合計736題を採択し、多岐にわたる分野から質の高い研究成果が発表されました。



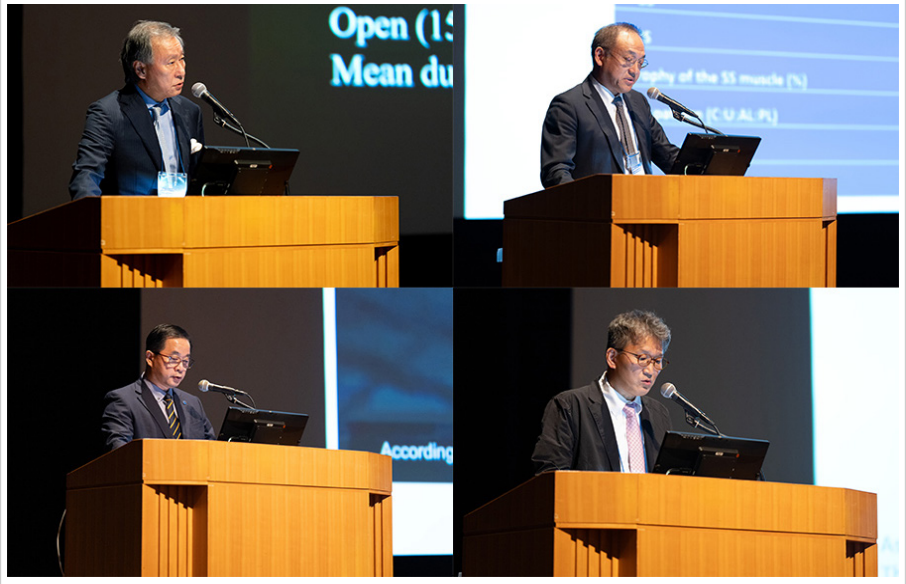
開会式における会長挨拶（第52回日本肩関節学会学術集会 会長 伊﨑 輝昌、第22回日本肩の運動機能研究会 会長 三宅 智による挨拶）

国際プログラムとしては、RSA、腱板修復、人工肩関節置換術の長期成績をテーマとしたシンポジウムに加え、KSESハイライトセッションを企画しました。欧米および韓国から第一線で活躍する演者を迎え、各国の臨床経験や考え方が提示され、肩関節外科を俯瞰的に捉える貴重な機会となりました。



国際シンポジウムで講演する海外招待演者（RSA、腱板修復、人工肩関節置換術の長期成績をテーマに、活発な討論が行われた）

教育的側面にも重点を置き、パネルディスカッションや特別講演を通じて、若手医師や多職種が基礎から応用まで体系的に学べる場を提供しました。パネルディスカッションでは、肩関節不安定症、凍結肩、RSA機種選択をテーマに、日常診療に直結する知見が示されました。特別講演では工藤公康氏をお迎えし、スポーツ医科学と現場をつなぐ視点から、障害予防や長期的視野に立った人材育成について示唆に富むご講演をいただき、続くクロストークにおいても活発な意見交換が行われました。



KSES Highlight Session の様子（韓国肩肘学会（KSES）との連携のもと、最新の知見が紹介された）

さらに、併催の第22回日本肩の運動機能研究会（三宅 智 会長）では、理学療法におけるエコーの活用をテーマとしたシンポジウムが行われ、臨床現場での実践的応用と今後の展開について討論がなされました。座談会では、肩関節リハビリテーションの歴史と将来を見据え、次世代へ知識と理念を継承する重要性が強調されました。さらに、研究活動の奨励を目的に、優秀演題賞（博多山笠大賞／飛梅賞）および若手演題奨励賞（若鷹賞）が授与されました。

特別講演・クロストークの様子（工藤公康氏）（スポーツ医科学と現場をつなぐ視点から、障害予防と人材育成について語られた）

本学術集会が、肩関節外科における継続的な学術探求を促すとともに、その成果を次世代へと確実に継承していく一助となっていれば幸いです。最後に、本学術集会の開催にご尽力いただいたすべての皆様に、改めて深く感謝申し上げ、学術集会報告といたします。

左：会場を埋め尽くす参加者（メインホール）（完全対面開催のもと、活発な聴講と議論が行われた）
右：全員懇親会の様子（食事を囲み、参加者同士の交流が深められた）

第52回日本肩関節学会学術集会　運営スタッフ集合写真（学術集会の円滑な運営を支えた大会関係者

第53回日本肩関節学会学術集会会長あいさつ

熊本整形外科病院 副院長 **北村 歳男**

第53回日本肩関節学会学術集会を主宰いたします、熊本整形外科病院の北村歳男です。熊本での開催は2000年の第28回以来となり、歴史ある本学会を再び当地でお迎えできますことを大変光栄に存じます。責任の重さを感じつつ、1年後の開催に向け、鋭意準備を進めております。

学術集会は 2026年10月30日（金）～31日（土）、熊本城ホールにて開催予定です。テーマは「進化と挑戦：Challenge and Progress」。AIをはじめとする技術革新が急速に進むいま、肩関節医療も新たな知見に挑み続ける姿勢が求められています。そこで本大会では、「腱板修復：エンテーシスの基礎研究と臨床応用」「再生医療の最前線」「リバース型人工関節の将来展望と合併症対策」「未解決領域である非外傷性不安定症」「高齢化社会の肩疾患」など、多角的に議論を深めるプログラムを構築しています。併催の第23回日本肩の運動機能研究会では、「姿勢と肩機能」「肩甲帯の安定性と胸郭機能」を主体に、今後の方向性を示す企画を準備中です。

また、「進化と挑戦」を象徴する大会オリジナルシンボルも完成し、未来へ挑戦する姿を表現しました。ぜひホームページでご覧ください。

https://jss53.umin.jp/

本学会の原点である“仲間との楽しい討論”の精神を大切にしつつ、多職種・国際的な視点を取り入れ、明日からの診療に活かせる実践的な学 術集会となるよう努めております。海外招聘講師との交流も充実させ、世界と知を共有する場を目指します。

秋の熊本は食の恵みも豊富で、地元の名物料理も多くの皆さまに楽しんでいただけるよう準備しております。学びと交流、そして熊本の魅力を存分に味わっていただければ幸いです。

来年、熊本城ホールで皆さまとお会いできますことを心より楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

熊本大会のオリジナルのシンボルマーク

第54回・第55回学術集会のお知らせ

第54回日本肩関節学会

第54回日本肩関節学会
学術集会会長：菊川和彦（マツダ病院整形外科）
【開催日】2027年10月29日（金）～30日（土）予定
【開催場所】広島（広島国際会議場）予定

第55回日本肩関節学会

学術集会会長：内山善康（東海大学医学部付属八王子病院整形外科）
開催日時：調整中
開催場所：調整中

トラベリングフェロー帰朝報告

韓国トラベリングフェロー帰朝報告

公立福生病院 整形外科 **吉田 勇樹**

このたび、2025年3月3日から3月30日までの4週間、JSS/KSES Traveling Fellowとして平川義弘先生とともに韓国18施設を訪問し、KSES Annual Meetingで発表する貴重な機会を頂きました。私は前半2週間についてご報告いたします。

Day 1, Welcome party（Seoul）

仁川空港到着後、ソウル市内のホテルに移動し、夜にはKSES国際委員の先生方に歓迎会を開いて頂きました。韓国料理とソジュ（チャミスル）で温かくおもてなし頂き、会食文化についても教えて頂きました。また、今回のTravelling Fellowの行程について、トルコ（3週間）およびタイ（2週間）のFellowと手術日程が重ならないよう、綿密な調整を重ねていただいたことを伺い、心より感謝の気持ちを抱きました。そして、前半はソウルを拠点とし、各施設を日帰りで訪問するスケジュールとなりました。

Day 2, Dr. Jung-Han Kim（Busan Paik Hospital, Inje University）

早朝4時30分に出発して釜山へ向かい、3件の人工肩関節手術を見学しました。後方展開に関してラミナスプラッターを関節窩と骨頭骨切面にかけることで関節唇の切除や関節包の剥離が容易になる工夫

や、肩甲下筋修復にアンカーを用いたSuture Bridgeを行っていた点が大変印象的でした。Jung-Han先生はとてもお酒が強く、私も宴会序盤から飲み過ぎてしまい帰りの高速列車は寝落ちしてしまい気づいたらソウルでした。

上：Day 1　下：Day 2

Day 3, Dr. Hyun-Seok Song（Eunpyeong St. Mary's Hospital, Catholic University）

Dermal allograft を用いた鏡視下腱板修復を含む3件の手術を見学しました。2026年KSES PresidentであるSong先生は物腰柔らかで、手術の要点を丁寧に教えて下さりました。同施設のHyung-suk Kim先生も「とても優しい先生」と仰っており、3日目の段階ですでに我々の体調を気遣い、会食時間を調整してくださるなど温かさが印象的でした。10月にJSSのInvite speakerとして来日された際も、私に気さくに声を掛けてくださり、とても嬉しかったです。

Day 4, Dr. Tae-Kang Lim（Nowon Eulji Medical Center, Eulji University）

朝に発表の機会をいただいた後、アキレス腱allograftを用いたLower Trapezius Transferを含む3件の手術を見学しました。この一連の訪問を通して、私が最も強く感じた韓国と日本の違いは、allograftの使用が可能かどうかという点であり、韓国ではallograftにより治療の選択肢が大きく広がり、日本では施行できない術式が数多く行われていることに深い刺激を受けました。Tae-Kang先生はとても気さくで話やすい方で、手術中においても重要なポイントは一度手を止めて説明して下さりました。一方で、会食では注がれたソジュのグラスの手を止めることなく飲み干されており、同施設の先生方とともに飲み語らう楽しい時間となりました。

上：Day 3　下：Day 4

Day 5, Dr. Joo-Han Oh（Seoul National University Bundang Hospital）

Day 5

朝のMini symposiumで発表の機会を頂いた後、表彰状と記念のお土産をいただきました。続いて見学した4件の手術では、多くのスタッフが緊張感を持ってそれぞれの役割をこなしているのが印象的でした。Oh先生の明確な説明に加え、質問には必ずご自身の論文とデータに基づいたエビデンスで回答してくださり、さらに手術の合間にはレクチャーまで行ってくださるという極めて教育的な時間を過ごしました。韓国だけでなく中国・インドからのFellowも在籍し、それぞれに研究テーマが与えられており、国際的な教育拠点であることを強く実感しました。会食では持参してくださった高級な赤ワインをご馳走になり、初めてソジュとビール以外のお酒を飲むこととなりました。Fellowが終始緊張していたのも印象的でした。

Day 8, Dr. Jin-Young Park（Neon Orthopaedic Clinic）

午前中に3件の手術を見学させて頂いた後、午後は観光の時間を下さりました。平川先生のお好きな「梨泰院クラス」のロケ地を巡った後に、ロッテタワーで韓国の絶景を展望しました。スポーツ選手を多く診療されるPark先生からは、トップアスリートに対する治療戦略やリハビリテーション方針について教えていただき、大変学びの多い一日となりました。

Day 9, Dr. Chul-Hyun Cho（Keimyung University Dongsan Hospital）

早朝に高速列車で大邱に移動しました。Cho先生は「1時間以内に手術を終える」という明確な哲学のもと、手術室が1部屋にもかかわらず6件の手術を迅速かつ正確に進める姿を見学し、シンプルさと合理性を極限まで追求した手術に深い感銘を受けました。夜は大邱の肩関節外科医の先生方と会食し、大変盛り上がりました。また、この施設で親しくなった2025年GOTS Travelling FellowのDu-han Kim先生とは、後日東京でも再会し、観光しながら熱く語り合う時間を持つことができました。

Day 10, Dr. Sae-Hoon Kim（Seoul National University Hospital）

JSS Travelling Fellow経験者であるSae-Hoon先生のもとでは、筋前進術を併用した鏡視下腱板修復など4件の手術を見学しました。Neviaser portalを作成してsuprascapular nerve releaseを行い、さらにSSPにかけた糸をNeviaser portalから牽引してSSP下を剥離しやすくするReverse tractionの工夫を学ぶことができました。当日はYonsei大学のTae-Hwan Yoon先生、Joon-Ryul Lim先生も見学にいらしており、盛大な飲み会となりました。ふぐ料理をご馳走になり、ソジュの乾杯の回数はいつも以上で、非常に賑やかな一夜となりました。

左上：Day 8　右上：Day 9　下：Day10

Day 11, Dr. Yong-Girl Rhee（Myongji Hospital）

KSESのLegendであるRhee先生は、ご自身が開発したRhee handleを用いて腱板に経皮的に糸掛けを行っており、ポータルを作らずあらゆる方向から刺入できる革新的な手技を拝見しました。6件の手術の合間にはインド人Fellowの論文指導もされており、70歳とは思えない圧倒的な行動力と教育力に深い尊敬の念を抱きました。

Day 11

Day 12, Dr. Jong-Hun Ji（Daejeon St. Mary's Hospital, Catholic University）

高速列車で大田へ移動し、Ji先生からは3件の手術を見させて頂きました。術野に入らせて頂く機会もあり、硬膜外針を使用したTrans-tendon Suture Bridge法は特に印象に残りました。帰路ではソウルの大渋滞に巻き込まれ、行きは20分弱だった道のりが、帰りはほとんど動かず2時間を要しました。深夜0時過ぎのホテル到着となりましたが、手配いただいた車が非常に快適で救われました。

Day 12

週末は平日の疲れを取りながらゆっくり過ごし、平川先生と1週目は明洞、2週目は江南を観光しました。

韓国では手術助手としてPA（Physician Assistant）が専門的に関わることで手術準備や進行が極めてスムーズに行われており、新しい製品やデバイスを積極的に導入する姿勢や、Research Nurseが外来患者データを整理し臨床研究を着実に進める体制など、医療・研究の両面で多くの刺激を受けました。また、どの施設でも先生方のお心遣いは想像以上で、手術見学やディスカッションは大変勉強になるものでした。夜には、毎晩の豪華な食事とソジュで温かくもてなしていただき、マッコリは高齢の方が飲むことがあるものの、あまり口にする機会がないという、意外な文化も学ぶことができました。韓国の肩関節外科医は国際的で英語も堪能なため、今後Traveling Fellowに参加される方は韓国語の学習よ

りも、韓国の飲み会文化やマナーを理解しておく方が有益かもしれないと感じました。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった日本肩関節学会の理事・代議員の先生方、温かく迎えてくださったKSESの先生方に心より御礼申し上げます。また、不在中に診療を支えてくださった医局の先生方、有給取得を許可してくださった病院関係者の皆様、そして家族にも深く感謝申し上げます。何より、今回の旅を通して支えてくださった平川先生には、多くの場面で助けていただき、終始楽しく充実した時間を共有させていただきました。心から御礼申し上げます。

韓国トラベリングフェロー帰朝報告

石切生喜病院 **平川 義弘**

2025年3月3日から3月30日までの4週間、KSESトラベリングフェローシップに参加し、韓国の18施設で手術見学を行うとともに、KSESの学会にも参加する貴重な機会をいただきました。このような素晴らしい経験を与えていただいた国際委員会の先生方、並びに肩関節学会の皆様に深く御礼申し上げます。前半の2週間は吉田先生にご報告いただきましたので、ここでは私より後半2週間の内容をご紹介いたします。

Day15, Dr. Woong-Kyo Jeong (Korea University Anam Hospital)

Korea University は韓国の私立大学の中でもトップクラスで、日本でいえば慶應義塾大学に相当する存在とのことでした。歴史ある大学で、ソウル中心部のアクセス良好な場所に位置しています。

手術は側臥位で3件ほど、非常にスムーズに進行されていました。夜には行きつけというお肉の美味しいレストランに連れて行っていただき、ワインとも相性が良く大変印象に残りました。

先生は当時、頚椎症性神経根症による左手のしびれに悩まれており、つらそうに手術をされていた姿が忘れられません。次にお会いする際にはご回復されていることを願っております。

Day16, Dr. Yong-Min Chun (Yonsei Chunyongmin Orthropedic hospital)

ソウル近郊で昨年開業された先生で、近隣の大学病院の元教授とのことでした。元の大学からの患者さんを継続して診療されているようで、若手医師の先生と2名体制で、大学との連携を保ちながら運営されていました。

クリニックの地下には手術室が3つあり、来年からはさらに2名の若手医師を迎え入れ、拡大していく予定とのことでした。韓国でも開業ブームが起きており、大学教授の若年化が進んでいるというお話も伺いました。

Day 17, Dr. Jun-Gyu Moon (Korea University Guro Hospital)

こちらもKorea Universityの分院で、ムーン先生は肩ではなく肘のスペシャリストとのことで、多くの肘手術を見学させていただきました。肩が中心の訪問の中で肘の専門医は珍しく、大変勉強になりました。

医局には関節鏡の歴史がわかる展示コーナーがあり、日本で開発された関節鏡が紹介されていて、日韓の医療交流の歴史を感じることができました。ムーン先生は2024年にトラベリングフェローとして日本を訪問されており、日本の先生方をよく覚えておられました。

左上：Day15　右：Day 16　左下：Day 17

Day 18, Dr. Doo-Sup Kim (Wonju Severance Christian Hospital)

キム先生はフロリダ大学に留学経験があり、動作解析に関する論文を多数執筆されている先生でした。夜の食事会では多くの若手医師とアシスタントの先生方と交流することができ、非常にエネルギッシュで若手に慕われている様子が印象的でした。

手術は2〜3件見学しましたが、そのスピードと効率性は圧巻で「タイパ（タイムパフォーマンス）重視」とご本人がおっしゃっていました。

なお、事務局の手違いで私たちの到着日が1日ずれて伝わっていたようで、珍しい症例を多く準備してくださっていたものの見学できなかったことは残念でした。

Day 19, Dr. Young-Min Noh (Busan Medical Center)

ノウ先生は大変な親日家で、2024年に日本でのトラベリングフェローシップに参加されたとのことでした。午前中の手術後には釜山の観光にも連れて行ってくださり、その厚意の理由を尋ねると「日本でとてもよくしてもらったから」とおっしゃっていたことが心に残っています。

Day 22, Dr. Yon-Sik Yoo (Camp 9 Orthopedic Clinic)

Yoo先生も大学近くで開業されており、テナント内に設置された手術室で手術を行っていました。肩甲上神経に関する研究を多数発表されており、研究面でも大変勉強になるお話を伺うことができました。

Day 23, Dr. Jong-Pil Yoon (Kyungpook National University Hospital)

テグという街にある歴史ある大学の教授であるJP先生は、基礎・臨床の双方で多くの優れた業績を挙げておられる先生でした。手術では一般的なRSAを見学させていただき、その後には基礎研究に関するプレゼンテーションをご紹介いただきました。内容は、日本でも最近使用されている痩身薬が腱板修復に及ぼす影響を検討した研究で、大変興味深いものでした。

午前の手術とプレゼンの後には、テグの歴史資料館に案内していただき、ハングルの成り立ちについて丁寧に教えていただきました。ハングルは約600年前に作られた比較的新しい文字であり、非常に理論的に構成されていることから「世界で最も学びやすい文字」とも言われているそうです。

JP先生は米国にも2年間留学されており、基礎研究に対して深い造詣をお持ちであるという印象を受けました。また、最終日のKSESでは最高賞を受賞され、その実力の高さを改めて実感しました。

テグは韓国第3の都市とされていますが、肩関節領域に関しては特に情熱の高い都市であると強く感じました。毎年冬には、テグの雪山で「ショルダーキャンプ」と呼ばれる合宿形式のトレーニングを開催されているとのことで、機会があればぜひ参加したいと思っております。

左：Day 22　右：Day 23

Day 24, Dr. Hyun-Chul Jo (Seoul National university Boramae Medical Center)

日本で言うところの東京大学に相当するソウル大学の分院であるソウル・ボラマエ病院のJo先生は、非常に精力的に多くの手術をこなされており、その手術待機期間はなんと2年にも及ぶとのことでした。

夜には、羊肉を提供する特別なバーを貸し切ってくださり、スタッフの皆さんとともに食事をご一緒させていただきました。

Jo先生は大学時代に大きな怪我をされた経験があり、その影響で兵役を免除されたとお話しされていました。兵役免除により39か月のアドバンテージが生まれ、その分、医師として研究に集中する時間を確保できたと語られていたことが非常に印象的でした。

Day 25, Dr. Jae-Hoo Lee (ilsan Paik Hospital, Inje University)

北朝鮮に非常に近い地域に位置する大学病院で手術をされているリー先生を訪問しました。地理的に緊張感のあるエリアに近いこともあり、どこか特別な空気を感じましたが、手術自体は淡々と通常どおりに進行していました。

大結節骨折に対する鏡視下骨折関節内整復固定術を施行されており、難易度の高い症例でしたが、苦労されながらも最後まで丁寧に完遂されていた姿が大変印象的でした。

左：Day 24　右：Day 25

Day 26-27 KSES

KSESでは、日本からも多くの先生方が参加されており、韓国の先生方と交えて活発な交流を深めることができました。最終日にはトラベリングフェロー記としてプレゼンテーションの機会をいただき、僕自身の研究概要を伝える事ができました。さらに、これまで見学させていただいたほぼ全ての病院の先生方と再びお会いして直接御礼を申し上げることができ、まるでお祭りのような楽しいひとときでした。

Day 28, 帰国

長いようで短かった28日間を終え、帰国の途につきました。今回のフェローシップ期間中、韓国国内では大規模ストライキの影響が続いており、多くの施設ではフェローが不在となり、手術件数も制限されるなど、非常に厳しい状況だったようです。そのような中でも温かく迎えてくださったすべての先生方に、心より感謝申し上げます。

平川 義弘先生（左）と吉田 勇樹先生（右）

この4週間は、大変濃密で、多くの出会いと学びに満ちた、私にとってかけがえのない時間でした。技術・哲学・価値観など、多方面から大きな刺激を受けることができたことを嬉しく思います。

今後、KSESトラベリングフェローシップに挑戦される先生方がいらっしゃいましたら、ぜひ応募していただき、日韓の友好をさらに深めていただきたいと思います。私自身、この経験を通して韓国に対する印象や感情が大きく良い方向へ変化しました。

最後に、旅をともにした吉田先生には、現地でのさまざまな場面——特に宴席では大いに助けていただきました。この場を借りて、改めて感謝申し上げます。

各委員会報告

雑誌「肩関節」編集委員会

担当理事 **内山 善康**　委員長 **新井 隆三**

雑誌「肩関節」編集委員会では新たに10名の新たな先生方を迎え、総勢43名で委員会活動を進めてまいります。本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

かねてより投稿締め切り日のお知らせや学会員の先生方へのメール等で周知させていただいておりましたが、2026年発刊予定である雑誌「肩関節」第50巻からJ-Stageの登載業務を請け負う業者が新しくなり、これに伴って投稿料を改訂せざるを得なくなりました。具体的には、学術集会発表論文/原著・総説が20000円から22000円、症例報告が20000円から22000円、Proceedingが8000円から10000円に値上げされます。先生方にご負担を強いることは大変心苦しいのですが、どうかよろしくお願い申し上げます。

第50巻は2025年11月26日に論文投稿を締め切り、159論文のご投稿をいただきました。誠にありがとうございます。投稿論文の査読に際しては毎年必ずいろんな問題が生じます。これらの問題を委員の諸先生方のお知恵をお借りしながら解決していくわけですが、できるだけ投稿してくださる学会員の先生方、またボランティアで査読してくださる編集委員・査読委員の先生方のストレスが少なくなるように、リーズナブルで一貫性のあるコンセプトを形成していきたいと考えております。

また、なかなか踏み込めていないAI（人工知能）に関するルール作りですが、今年度こそは投稿規定に盛り込みたいと考えています。近年はAIそのものがますます多様化し、その扱いは非常に難しい現在進行形の問題となっています。そのような状況下で、最低限守るべきルールを提起できればと考えている次第です。

当委員会では投稿規定やチェック表を随時改訂しています。本誌に論文を投稿される際は、日本肩関節学会のホームページで、必ず最新の情報をご確認いただきたく思います。

雑誌「肩関節」への投稿規定について：http://www.j-shoulder-s.jp/entryrule/index.html

国際委員会

担当理事 **三幡 輝久**　委員長 **長谷川 彰彦**

トラベリングフェローの派遣と受け入れについてご報告させていただきます。

1. 2025年10月8日から10月25日までSECECトラベリングフェロー2名（Dr. Riccardo Ranieri、Dr Mustafa Rashid）が訪日されました（訪問地：福岡、東京、千葉、群馬、仙台、大阪、広島）。トラベリングフェローのお世話をしてくださった先生方に深く感謝申し上げます。
2. 2025年10月9日の国際委員会において2026年度SECEC Traveling Fellow の選考を行いました。5人の先生にご応募いただきましたが、厳正なる審査の結果、順天堂大学の森川大智先生が選出されました。森川先生には2026年9月から10 月にかけて欧州の著名な先生の施設を訪問していただく予定です。
3. 現在、2026年9月にASES（アメリカ肩肘学会）へ派遣予定のトラベリングフェロー2名を募集しております（応募締め切りは2026年3月17日必着です）。
   貴重な経験になることは間違いありませんので奮ってご応募ください。

高岸直人賞決定委員会

担当理事 **谷口 昇**　委員長 **山本 宣幸**

高岸直人賞選考委員会の活動報告をさせていただきます。担当理事は谷口　昇先生、副委員長は二村昭元先生です。他に12名の委員の先生からなります。委員会の主な活動は、高岸直人賞、ベストアブストラクト、そして国際論文奨励賞の選考です。高岸直人賞の選考は、まず代議員による1次選考を行い、その後、選考委員による論文審査（2次選考）を行います。最終的に基礎論文から1編、臨床論文から1編を選出し、理事会に提案します。1987年より開始された伝統ある本学会の学会賞で、本賞を受賞した先生の多くはその後、本学会でも中心的に活動されております。ベストアブストラクトは毎年開催される学術集会の抄録の中から選出され、本学会の公式英文機関紙であるJournal of Shoulder and Elbow Surgery(JSES)誌に掲載されます。国際論文奨励賞は、第47回日本肩関節学会学術集会会長末永直樹先生から提供していただいた基金を元に、日本から世界へ情報発信するため、本学会の公式英文機関紙であるJSES誌等への投稿を奨励するために設立されました。この奨励賞の設立以来、年々、JSES関連雑誌への日本からの投稿数は増加しております。引き続き積極的に投稿をしていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

社会保険等委員会

担当理事 **望月 智之**　委員長 **長谷川 彰彦**

社会保険等委員会の活動について報告いたします。

令和7年8月1日に望月智之担当理事、高橋憲正先生、見目智紀先生、長谷川彰彦の4名で令和8年度診療報酬改定のための厚労省ヒアリングをWebで受けました。①人工関節置換術・肩関節(腱移行術を伴う)　②肩関節唇形成術（自家腸骨移植術を伴うもの）（関節鏡下）と2つの術式のプレゼンテーションを行い、質疑応答を通し 上記術式の保険収載を要望致しました。改訂結果は令和8年1月中には発表される予定です。このニュースレターが発刊されるころには、改訂結果が提示されていることと思いますが、いずれの結果であったにせよ2年後の令和10年の新規収載術式の検討を社会保険等委員会で行っていくこととなります。令和7年に実施した手術に関する手術アンケートについてもお願いさせていただく予定としておりますので、引き続き会員の先生方のご支援とご協力のほどよろしくお願いいたします。

教育研修委員会

担当理事 **菊川 和彦**　委員長 **土屋 篤志**

今年度の教育研修委員会の活動内容について報告致します。

第17回教育研修会を第52回日本肩関節学会学術集会の開催期間中に開催しました。聴講者数は250名以上と盛況となりました。誠にありがとうございました。講演のハンドアウトは会員専用の学会ホームページから入手できるようにしておりますのでご活用ください。

第17回教育研修会　会場：福岡国際会議場

日程：2025年10月11日（土）

教育研修講演1 第2会場　8:00～9:00（日整会単位：9）

座長　名鉄病院 関節鏡・スポーツ整形外科センター　土屋篤志
演題1：関節不安定症の診断と治療
演者：名古屋市立大学 運動器スポーツ先進医学講座　吉田 雅人先生
演題2：肩のスポーツ障害の診断と治療
演者：横浜南共済病院 整形外科　山崎 哲也先生

教育研修講演1 第2会場　8:00～9:00（日整会単位：9）

座長　マツダ病院 整形外科　菊川 和彦先生
演題1：肩関節周囲の神経障害
演者：千葉大学医学部 整形外科　落合 信靖先生
演題2：肩のリハビリテーション
演者：丸太町リハビリテーションクリニック　森原 徹先生

また、第9回日本肩関節学会キャダバーワークショップを11月22日（土）、23日（日）に、名古屋市立大学先端医療技術イノベーションセンターにて開催致しました。参加者は関節鏡コース6名、切開手術人工関節コース6名の合計12名で、関節鏡コース、切開手術人工関節コースをそれぞれ3テーブルずつ、6名の講師によって手術手技の実習指導をして頂きました。また、11月22日（土）17時00分から第9回肩関節疾患手術手技フォーラムを名古屋市立大学医学部研究棟11階 講義室Aにて開催し、講演会および企業展示を行いました。

第9回キャダバーワークショップ・肩関節疾患手術手技フォーラム

実施責任者

•吉田 雅人先生（名古屋市立大学 整形外科）

講師

- 河野 友祐先生　（藤田医科大学 整形外科）
- 菊川 和彦先生　（マツダ病院 整形外科）
- 酒井 忠博先生　（トヨタ記念病院 整形外科）
- 佐原 亘先生　（大阪大学　整形外科）
- 土屋 篤志先生　（名鉄病院 整形外科）
- 山本 宣幸先生　（東北大学 整形外科）

（五十音順）

参加者の皆様

関節鏡視下手術コース

- 浅野 博美先生　（岐阜大学医学部附属病院）

- 池尻 好聰先生　（シムラ病院）
- 喜多 大樹先生　（伊勢原協同病院）
- 坂本 和也先生　（佐世保共済病院）
- 松田 昌悟先生　（国東市民病院）
- 米田 夏雄先生　（水戸赤十字病院）

直視下・人工関節手術コース

- 大久保徳雄先生　（いちはら病院）
- 垣内 崇先生　（東和会 第一東和会病院）
- 河崎 裕介先生　（広島大学病院）
- 喜友名 翼先生　（那覇市立病院）
- 中西 凜太朗先生　（鶴岡市立荘内病院）
- 矢部 恵士先生　（田川市立病院）

（五十音順）

ワークショップの開催に当たっては、名古屋市立大学統合解剖学教室の皆様、整形外科学教室及び運営事務局のNPO法人メリ・ジャパン様をはじめ関係各位の皆様の多大なご協力、協賛を頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今後も教育研修委員会は会員の皆様の肩関節診療のお役に立てるよう研修会やワークショップなどの教育活動を行って参ります。今後ともご指導、ご意見を賜りますようお願い致します。

学術委員会

担当理事 **山門 浩太郎**　委員長 **藤井 康成**

学術委員会の活動報告としては、腱板の脂肪変性評価に関する調査と関節窩OCDに関する2つの調査を行なっております。

日本におけるMRIによるGoutallier分類による腱板脂肪変性評価の信頼性に関する調査を目的に、学術委員会委員を対象とし、検者内、検者間での信頼性に関して、解析を行ないました。

今回は、棘上筋のみを対象としておりますが、結果は諸家の報告と同じく、検者内、検者間において高い信頼性は得られず、Goutallier分類による評価の問題点が浮き彫りとなりました。

本調査に関する報告は、今年の第52回日本肩関節学会で学術委員会報告として、担当委員の橋本先生より発表していただきました。ご清聴いただきました会員の皆様に深く感謝いたします。

本報告に関しましては、雑誌肩関節に投稿し掲載する予定であります。

今後は、評価基準や条件の設定を変えることで、より信憑性の高い評価法を追求できればと担当委員を中心に一丸となって検討して行く所存であります。

肩甲骨関節窩OCDのアンケート調査につきましては、第1種会員を対象に1回目のアンケート調査を行なっている段階であります。できるだけ多くの会員の皆様からご回答をいただければと期待しております。

第1回の調査結果を踏まえて、対象ドクターあるいは施設への調査依頼を行い、2回目の調査へと進んでいく予定であります。

協力依頼の要請がありましたドクター、施設におかれましては、何卒ご協力、ご対応いただきますよう宜しく

お願い申し上げます。

その他の報告としましては、

第99回日本整形外科学会学術総会

4つの企画案を事務局へ提出し、

「リバース型人工肩関節置換術の反省期」

「凍結肩の診断、治療up to date」

の2企画が採用されました。

第100回日本整形外科学会学術総会より、例年より早くシンポジウム企画依頼があり、現在委員会内で企画を検討している最中です。

今後とも学術委員会活動につきまして、会員の皆様の益々のご厚情ならびにご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

広報委員会

担当理事 **田中 栄**　委員長 **夏 恒治**

広報委員会では主にホームページとニュースレターの制作業務を担当しています。

ニュースレター24号でお知らせしていた日本肩の運動機能研究会のホームページのリニューアル作業が完了し，新ホームページが公開されています。

現在は以前から引き続いて非医療従事者，一般の方向けのホームページの作成，広告バナーの作成の準備を進めています。

ニュースレターは今号で25号を迎えました。毎回，多くの先生方にご寄稿をお願いしており，お忙しい中ご執筆いただいていることに，心より感謝申し上げます。

今後も年2回（1月，6月）の発刊を継続してまいりますが，「このような記事を掲載して欲しい」「こういう記事を書きたい」といったご要望がございましたら，いつでもご連絡ください。

財務委員会

担当理事 **後藤 英之**　委員長 **酒井 忠博**

財務委員会は後藤英之新担当理事を始め、永井宏和委員、結城一声委員を新しくお迎えし、引き続き経験豊富な委員の皆様のお力をお借りして、出来る限り財務の改善に尽くしたいと存じます。

2024年度の財務報告としては、今年度もやはり受取会費が減収となりました。会員数は2,613名と微増していますが、会費の期限内納付率が77%まで低下しているのが大きな問題です。またJSES購読料の支払額は、今年度も為替レート120円で取り扱われたため大きな損失にはなりませんでしたが、来年度以降は不透明です。その他、印刷物のペーパーレス化、会議のリモート化など皆様のご協力のお陰で経費削減は出来ましたが、今回は大口の寄付金収入があったため、最終的には1500万円程度の増収となったものの、これが無ければ400万円ほどの赤字でありました。

来期にも寄付金収入はありますが、今後の予算編成に向けての問題は財政の赤字体質であり、新たな事業計画を行うためにはこれを改善する必要があるということです。JSES購読料は値上がり必須の見通しであり、これらを踏まえて理事会としてJSESの購読についてのルール変更、年会費値上げ方向での検討がされておりますが、財務委員会としては、年会費の徴収について事務局に確実に行って頂くよう

にお願いするとともに、複数年未納会員に対しては推薦人にもご協力を頂くこと、既に導入されているクレジット決済についてのアナウンス強化などを進めることなど、引き続き可能な限り財政の健全化を目指し、新たな事業展開が可能になるよう努力して参ります。

会員の皆様方におかれましては引き続き御理解、御協力を御願いしますと共に、財務改善のため、お知り合いの先生へ会費納入を促して頂き、さらなる会員増加に御協力頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

定款等運用委員会

担当理事 **谷口 昇**　委員長 **糸魚川 善昭**

当委員会は既存の規則の変更や新たな規則の策定に対して適切に対応する事が主たる役目でありますが、本年度は事務局の変更に伴い、定款第2条（事務局）“事務所を東京都港区に置く”から”事務所を東京都千代田区に置く”へ変更となり、10月の社員総会で承認されました。今後は各委員会からの依頼を受け次第迅速に適宜webにて委員会を開催し、下記委員会のメンバーのともに規則の変更や策定を行っていく予定です。今後も学会運営のさらなる向上に努めてまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

リバース型人工肩関節運用委員会

担当理事 **菊川 和彦**　委員長 **松村 昇**

リバース型人工肩関節運用委員会（以下、RSA委員会）は、担当理事である菊川和彦先生のご指導のもと、新たに中根康博先生を迎えて計9名の委員の先生方とともに活動しております。主な活動内容はRSA適正使用基準の運用に関する症例相談、およびRSA講習会における適正使用基準の説明とJOANR 登録率向上に向けた啓発活動です。

RSA 手術件数の増加に伴い、症例相談件数も増加しております。2024年度の症例相談は合計17例でしたが、その多くは 65歳未満で RSA 以外に適切な治療選択肢が乏しい症例でした。適正使用基準には「判断に迷う場合は RSA 委員会に相談する」と明記されている通り、当委員会は許認可の決裁機関ではなく、あくまで相談窓口として位置づけられていますが、判断に難渋する症例については随時ご相談を受け付けております。また、適正使用基準は随時改正・改訂されておりますので、日本整形外科学会会員ホームページ JOINTS に掲載されている最新情報を定期的にご確認ください。

症例相談の具体的手順としては、日本肩関節学会事務局（office@shoulder-s.jp）宛に、該当症例の情報をまとめたスライド（PowerPoint または PDF）をメールにてご送付ください。その際、ご相談者として当該症例をどのように評価し、どの術式を検討しているかについてもご記載ください。事務局に届いた相談案件は、担当理事および委員長が内容を確認したうえで、委員会の先生方に意見を伺う流れとなっております。回答は通常10日程度でお返ししておりますが、手術予定日が迫っているなど特段の事情がある場合は、可能な限り迅速に対応いたします。また、症状が落ち着いた段階で構いませんので、可能な範囲で治療経過について RSA 委員会へご報告いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

日本肩の運動機能研究会運営委員会

担当理事 **西中 直也**　委員長 **船越 忠直**

日本肩の運動機能研究会（以下、研究会）は独立した団体ではなく日本肩関節学会内の一組織であり、研究会会員は日本肩関節学会会員（正会員、準会員1号、2号）で構成されています。研究会は日本肩の運動機能研究会運営委員会（以下、運営委員会）により運営され、実務は研究会世話人会が行います。運営委員会では、研究会会員が活躍、成長する場を提供すること、研究会が発展し様々な形で学術的業績を報告できる機会を提供することを目標としており、日本肩関節学会理事会、代議員会と綿密に連携し問題点を解決したいと考えております。

近年、準会員の先生の活躍は目覚ましいものがあります。理学療法士の星川恭賛先生（山形県立保健医療大学大学院）は第38回高岸直人賞を受賞されました。また、第51回日本肩関節学会の採択演題の中からベストアブストラクトとして、同じく理学療法士である幸田 仁志先生（京都工芸繊維大学）が選出されております。

本年2026年9月22～25日にバンクーバーで第8回国際肩肘セラピスト学会（8th ICSET：https://icssset.org/）が開催されます。2023年ローマで開催された第7回国際肩肘セラピスト学会（ICSET）において、ICSETの開催支援組織として国際肩肘セラピスト学会連合(ICSSSET)が設立されました。日本はICSSSETの5つの設立国の1国として、ヨーロッパ、オーストラリア、アメリカ合衆国、イギリスと共に今後のICSETを発展させていく義務があります。準会員の皆様には、奮ってご参加頂けます様お願い申し上げます。

研究会の発展のために世話人を増員することとしました。新たに世話人に就任されたのは、烏山昌起先生（南川整形外科）、鈴木智先生（東京スポーツ＆整形外科クリニック）、鈴木加奈子先生（たちばな台病院）、田村将希先生（昭和医科大学）、伊藤雄先生（整形外科　北新病院）の5名です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本肩の運動機能研究会世話人会の先生をご紹介いたします。

代表世話人：村木 孝行

副代表世話人：甲斐 義浩、高村 隆

世話人：石川 博明、内田 智也、河上 淳一、千葉 慎一、三浦 雄一郎、宮下 浩二、宮本 梓、山崎肇、遊佐 隆

新世話人：烏山 昌起、鈴木 智、鈴木 加奈子、田村 将希、伊藤 雄

用語委員会

担当理事 **田中 栄**　委員長 **佐野 博高**

用語委員会では、現在「五十肩」、「臼蓋」、「サイレント・マニプレーション」など、これまで検討してきた用語について、検討結果の公表に向けて、準備を進めています。ただ、メールやニュースレターだけでは「一過性の情報発信」として終わってしまいますので、後々まで検索可能な方法で公開することが望ましいと考えています。そのため、広報委員会等にもご協力いただき、できるだけ後世に残るような形での公開方法についても検討を行っています。

また、2026年には会員の皆様から新たに検討対象用語を募集し、学術用語としての位置づけについて検討を行っていく予定です。募集を開始した際は、学会事務局からのメール等でお知らせいたしますので、ご協力いただければ幸いです。

当委員会では、会員の皆様の正確な用語使用に資するよう、活動を進めて参りますので、引き続きご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

選挙管理委員会

委員長 **田崎 篤**

2025年度は、理事選挙、代議員選挙および第53回学術集会会長選挙を行いました。以下の通り決定しました。

（以下敬称略）

第55回日本肩関節学会学術集会会長

学術集会会長選出規則8条

- 内山 善康（東海大医学部附属八王子病院）

代議員

代議員選出規則第4条2推薦基準(1)-(3)該当者

- 植木 博子　（東京スポーツ&整形外科クリニック）
- 永田 義彦　（広島西医療センター）
- 福西 邦素　（洛西医療センター）
- 泉 仁　（高知大学医学部附属病院　リハビリテーション部）
- 加藤 久佳　（日本鋼管福山病院）
- 廣瀬 毅人　（大阪大学　整形外科）
- 石塚 真哉　（名古屋大学整形外科）
- 四本 忠彦　（京都九条病院）
- 大石 隆幸　（聖路加国際病院）
- 中根 康博　（角谷整形外科病院）

（立候補順）

学術代議員選考委員会

担当理事 **谷口 昇**　委員長 **大前 博路**

全ての地域における肩の医療レベルの水準を一定にすること、日本肩関節学会の発展のために、指導を行う代議員が不在の地域をなくすことの2つを目的に、地域格差検討ワーキンググループが設置されました。2025年10月9日に実施された代議員選挙において、代議員総数は93名から99名に増加し、その結果、代議員不在の都道府県は17県から16県へと減少しております。

なお、本ワーキンググループは前回の社員総会において常設委員会への移行が承認され、新名称は 「学術代議員選考委員会」 となりました。

現在、代議員不在県を解消するための具体的方策について検討を進めております。代議員立候補に関してご質問・ご相談のある先生は、担当委員または学会事務局にお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

都道府県	2024年	2025年	都道府県	2024年	2025年	都道府県	2024年	2025年
北海道	6	6	新潟	2	2	鳥取	0	0
青森	0	0	富山	1	1	島根	0	0
岩手	0	0	石川	0	0	岡山	1	1
宮城	4	4	福井	0	0	広島	3	5
秋田	0	0	山梨	0	0	山口	0	0
山形	2	2	長野	1	1	徳島	0	0
福島	0	0	岐阜	1	1	香川	0	0
東京	12	14	静岡	1	1	愛媛	1	1
茨城	1	1	愛知	7	8	高知	0	1
栃木	2	2	京都	3	5	福岡	4	4
群馬	3	3	大阪	12	12	佐賀	1	1
埼玉	1	0	三重	0	0	長崎	2	2
千葉	6	5	滋賀	1	1	大分	0	0
神奈川	5	4	兵庫	2	2	熊本	3	3
			奈良	1	1	宮崎	0	0
			和歌山	0	1	鹿児島	3	3
						沖縄	1	1

日本肩関節学会 委員会リスト （2025年12月現在）

常設委員会

雑誌「肩関節」編集委員会

担当理事　内山 善康
委員長　新井 隆三
副委員長　二村 昭元
委員　石垣 範雄、石塚 真哉、泉 仁、一ノ瀬 剛、糸魚川 善昭、井上 和也、植木 博子、大石 隆幸、大木 聡、梶田 幸宏、加藤 久佳、川崎 隆之、河野 友祐、木田 圭重、桐村 憲吾、見目 智紀、設楽 仁、芝山 雄二、杉森 一仁、田中 誠人、寺林 伸夫、徳永 琢也、永井 宏和、永田 義彦、中根 康博、橋本 瑛子、八田 卓久、平川 義弘、廣瀬 毅人、福西 邦素、藤澤 基之、松木 圭介、間中 智哉、水城 安尋、光井 康博、美舩 泰、三好 直樹、森川 大智、山口 浩、結城 一声、四本 忠彦

国際委員会

担当理事　三幡 輝久
委員長　長谷川 彰彦
委員　糸魚川 善昭、瓜田 淳、大前 博路、高橋 憲正、二村 昭元、藤澤 基之、松木 圭介、松村 昇、森川 大智、山本 宣幸、北村 歳男（現会長）、菊川 和彦（次期会長）
アドバイザー　菅谷 啓之

高岸直人賞決定委員会

担当理事　谷口 昇
委員長　山本 宣幸
副委員長　二村 昭元

委員　新井 隆三、井上 和也、大泉 尚美、大木 聡、菊川 憲志、木田 圭重、後藤 昌史、高橋 憲正、徳永 琢也、中川 滋人、夏 恒治、廣瀬 聰明、伊崎 輝昌（前会長）、北村 歳男（現会長）、菊川 和彦（次期会長）
アドバイザー　高岸 憲二

社会保険等委員会

担当理事　望月 智之
委員長　長谷川 彰彦
委員　大前 博路、見目 智紀、菊川 憲志、田中 誠人、高橋 憲正、土屋 篤志、永田 義彦、名越 充、八田 卓久、早川 敬、日山 鐘浩、廣瀬 聰明、山口 浩

教育研修委員会

担当理事　菊川 和彦
委員長　土屋 篤志
委員　落合 信靖、河野 友祐、国分 毅、酒井 忠博、佐原 亘、末永 直樹、森原 徹、山崎 哲也、山本 宣幸、吉田 雅人
アドバイザー　後藤 英之

学術委員会

担当理事　山門 浩太郎
委員長　藤井 康成
委員　石垣 範雄、落合 信靖、梶田 幸宏、木田 圭重、後藤 昌史、田﨑 篤、橋本 瑛子、廣瀬 毅人、水野 直子、三好 直樹、松木 圭介、山本 宣幸、横矢 晋
アドバイザー　塩崎 浩之、高瀬 勝己

広報委員会

担当理事　田中 栄
委員長　夏 恒治
委員　植木 博子、栫 博則、梶山 史郎、土屋 篤志、橋本 瑛子、原田 洋平、堀籠 圭子、美舩 泰、三宅 智、村 成幸
アドバイザー　北村 歳男

財務委員会

担当理事　後藤 英之
委員長　酒井 忠博
委員　伊崎 輝昌、石毛 徳之、国分 毅、佐原 亘、設楽 仁、永井 宏和、中川 滋人、村 成幸、結城 一声、横矢 晋
オブザーバー　今井 晋二
アドバイザー　岩堀 裕介
外部アドバイザー　柄澤 徹

倫理・利益相反委員会

担当理事　望月 智之
委員長　名越 充
委員　加藤 久佳、芝山 雄二、新福 栄治、鈴木 一秀、田中 稔、水野 直子、水城 安尋、三宅 智
外部アドバイザー　柄澤 徹

定款等運用委員会

担当理事	谷口 昇
委員長	糸魚川 善昭
委員	瓜田 淳、梶山 史郎、田崎 篤、光井 康博、門間 太輔、四本 忠彦
アドバイザー	伊崎 輝昌
外部アドバイザー	柄澤 徹

リバース型人工肩関節運用委員会

担当理事	菊川 和彦
委員長	松村 昇
委員	落合 信靖、栫 博則、木村 明彦、桐村 憲吾、小林 尚史、笹沼 秀幸、寺林 伸夫、中根 康博、間中 智哉
アドバイザー	池上 博泰、菅谷 啓之、山門 浩太郎

日本肩の運動機能研究会運営委員会

担当理事	西中 直也
委員長	船越 忠直
委員	大石 隆幸、甲斐 義浩、黒川 大介、見目 智紀、小林 尚史、酒井 忠博、佐原 亘、高村 隆、田中 誠人、藤井 康成、村木 孝行、吉田 雅人、森原 徹、山口 光國、山崎 哲也 オブザーバー：菊川 憲志（第 23 回日本肩の運動機能研究会会長として）、夏 恒治（第 24 回日本肩の運動機能研究会会長として）
アドバイザー	岩堀 裕介、浜田 純一郎

用語委員会

担当理事	田中 栄
委員長	佐野 博高
委員	石塚 真哉、笹沼 秀幸、鈴木 一秀、田中 稔、永井 宏和、三宅 智、門間 太輔、結城 一声、吉田 雅人

学術代議員選考委員会

担当理事	谷口 昇
委員長	大前 博路
委員	泉 仁、梶山 史郎、杉森 一仁、八田 卓久、三好 直樹、三宅 智、山口 浩 ※ 2025 年 10 月代議員総会で地域格差検討 WG から常設委員会へ昇格

特別委員会

選挙管理委員会

委員長	田崎 篤
委員	井上 和也、大泉 尚美、新福 栄治、徳永 琢也、福西 邦素

事務局からのお知らせ

2025年11月に2025年度の年会費を郵送にてお送りさせていただきました。当学会の会期は、8月1日～翌年7月31日になりますので、現会期は2025年度という少しわかりづらい設定になっておりますが、何卒、よろしくお願い申し上げます。

また、事務局から定期的に会員の先生方へのご連絡をお送りしておりますので、メールアドレスやご勤務先、郵送希望先が変更になった場合は、是非、会員専用ページでの変更または事務局までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

編集後記

広報委員会 **堀籠 圭子**

ニュースレター25号を最後までお読みいただき、ありがとうございます。お忙しい中、原稿をご執筆いただいた先生方に感謝いたします。

学会誌、ニュースレターがペーパーレス化になって久しいですが、スマホからでもパソコンからでもいつでも閲覧でき、とても便利な時代になりました。デジタル世代にとっては当たり前ですが、ほぼ紙世代の自分にとっては、能動的にアクセスしないと情報を得られません。そこの意識改革が必要だと思っております。このニュースレターは、会員の皆様の活動や考え方を知る最新情報誌だと改めて感じております。

最後に、担当理事の田中先生、アドバイザーの北村先生、委員長の夏先生、事務局の皆様、広報委員会の先生方のお力添えにより本号を発刊することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

一般社団法人
日本肩関節学会
Japan Shoulder Society

編集：一般社団法人日本肩関節学会　広報委員会
田中栄（担当理事）、夏恒治（委員長）、植木博子、栫博則、梶山史郎、土屋篤志、橋本瑛子、原田洋平、堀籠圭子、美舩泰、三宅智、村成幸、北村歳男（アドバイザー）

発行：一般社団法人日本肩関節学会
〒100-0003　東京都千代田区一ツ橋1-1-1　株式会社毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550 / FAX：03-6267-4555
E-mail：office@shoulder-s.jp / URL：https://www.j-shoulder-s.jp/